

# よねさと 米里振興会

■代表者：会長 山崎 勝  
■人 口：1,561人（男 757人／女 804人）  
■世帯数：532世帯  
■拠 点：米里地区センター  
（江刺区米里字八幡75番地1 ☎011-2221）  
（平成25年8月31日現在）

## 結 - ゆい - ～ 30の地区振興会による 協働のまちづくり実践事例 ～

米里地区は、市の東部に位置し、県内陸部と沿岸部を結ぶ宿場町として栄えました。産業は稲作を中心に畜産、野菜、りんごも盛んな地域です。

歴史的遺産の宝庫ともいえる同地区は、人首丸（阿弓流為の弟・大武丸の子）の戦場や江戸時代末期から昭和10年代にかけて採掘が行われた金山の坑道や選鉱跡地、詩人・宮沢賢治が大正時代に訪れた種山高原や五輪峠など、他地区からも人が訪れる観光スポットを抱えています。

米里振興会は、昭和32年11月28日に「地区民相互の親睦と連携、住民の実践活動による地域向上」を目的に設立。平成16年4月の地区センター化に伴い、同年10月に「米里地区コミュニティ計画」を策定しました。現在、①総務局②社会福祉部③環境保健部④生活安全部⑤体育部⑥生涯学習部——の1局5部制の組織で事業を実施。ここでは、特徴的な事業を紹介します。



巡回座談会で地元の良さを再認識

毎年、各行政区をまわる座談会「きいてみてっぺ・かだつてみてっぺ懇談会」を開催しています。これは、同振興会の活動報告をはじめ、市のまちづくりに関することや、ILCに関連する事業などのお知らせと、地区からの要望などにも聞いています。約2時間ほどの懇談ですが、地元住民の関心も高く、多くの参加があります。この巡回により、市が目指す「協働のまちづくり」に対しての地元の役割や、振興会事業の内容を周知し、同地区の良さを再認識する絶好の機会となっています。行政区においても、行事などをこ



地域独自で行う「木伐り隊」

### ■米里「絆」事業



米里「絆」事業で購入した防災備品

昨年度、まちづくり交付金を活用し、同振興会では、米里「絆」事業を実施しました。これは、同地区の12行政区が集落の地域活性化を目的に事業を実施した場合にそれぞれ10万円を上限として支援を行うもの。主な例としては、集落施設や自治会館の老朽化した部分の修繕整備などが多く見られました。

そのほかには、郷土芸能備品の購入や、地域の防災拠点となる自治会館に防災グッズを整備するなど、地域の実情に応じて支援を行いました。なかには地区の自費も含め40万円超の事業をしたところもあります。この整備によって、

### ■木伐り隊を結成

同地区は、山間部であるため、県道や市道沿いの立木が多く、通行の妨げになるほど木が成長していました。そこで「地域の悩みは地域で解決しよう」という精神で、地元住民が、県や市の伐採だけに頼らず地区独自で行う「木伐り隊」を編成。立木の伐採事業を実施しました。毎年、立木の状態を、定期的にチェックし、地元住民だけでなく、一般ドライバーもその道路を気持ちよく、通行できるように、今後も伐採事業を行うことにしています。

## 野菜作りで心を癒す

協働農場で被災者と農作業

### ～特定非営利活動法人 復興支援奥州ネット～

同法人が、被災者支援活動として力を入れている事業が「協働農場」です。前沢区字陣場の畑約20㍓を借りて、会員や市内ボランティアと沿岸被災者が一緒に野菜作りをするもので、これまで2年目。ここで、キャベツやハクサイ、ダイコン、ニンジンなどの野菜を栽培しています。

9月20日、ことし5回目の共同作業が行われました。この日は陸前高田市広田町の仮設住宅から10人が参加。会員8人と共に、土の耕起からマルチシート貼り、種まき、水

やりまで、慣れた手つきでハクサイとダイコンの種をまきました。

一汗かいた後の休憩も楽しいな時間です。広田から持参した銘菓や、地元・前沢のリンゴやナシを囲みながら、近況などを語り合い、談笑しました。

休憩後は、いよいよ収穫です。春に自分たちで植えたサツマイモを掘り起こすと、参加者の顔が自然と笑顔に。震災前は畑をつくっていたという村上力さん（69）は「月1回の農作業が楽しみ。サツマイモは、ふかしても天ぷらにしてもいい。形はふぞろいだが自分で収穫したものを食べるのは何より——」と満面の笑みで語ってくれました。

千田理事長は「協働農場を始めてからみんなの表情が変わっていくのが分かった。収穫した野菜は持ち帰ってもらうが、仮設住宅でおすそ分けをするそう。すると、今度は自分が農場に行ってみたくてコミュニケーションの再生につながっていくのでは——」と、期待を込めて話します。



1



2



3



5



4

1 2 みんなで楽しく種まき作業をしました 3 サツマイモの収穫を喜ぶ参加者 4 協働農場での農作業を楽しみにしている村上力さん 5 今日もいい汗をかきました。これから前沢温泉舞鶴の湯に汗を流しにいきます

また、協働農場の話聞いた市内へ避難している沿岸被災者からも、農作業をしたいとの希望があり、隣接する畑30㍓を借用。7月から農作業を始めています。

さまざまな復興支援のカタ

チがある中で、農作業を通じた被災者支援を行っている同法人への期待はますます高まっています。

■特定非営利活動法人復興支援奥州ネット（☎011-2221）



“つながれ広がれNPOの輪”の後継企画のこのコーナーでは、特定非営利活動法人や市民団体の活動を紹介していきます。